

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、愛媛県四国中央市「障がい者共働オフィス 心のわ」（代表鈴木太さん）のお話を伺いました。



○「障がい者共働オフィス 心のわ」について

私たち「心のわ」は、2007年春に行われた四国中央市障害児者相談支援センター主催のパソコン講習会を受講したメンバーから生まれ、それぞれに違った障害状況のなか、自分たちに出来ること、楽しめることを見つけて活動につなげています。

○普段の活動は

2010年4月より四国中央市商工会館にてピアサポートセンターの運営をメンバーで行っています。ピアサポートセンターとは「心のわ」のメンバーが中心となり、障がいのある当事者が、障がいのある当事者をサポートし、同じ障がい、背景だからこそ、対等な立場で話せる事があるとの思いから、同じ障がいや課題、悩みを抱える障がい者や支援者を支え合う活動(ピアサポート)をボランティアで実施しています。

また、講習会等のイベントを毎月開催し、情報交換やコミュニケーションを深めています。

その他の活動では、障がい者を対象にパソコンの講習会、名刺・ホームページの制作をメンバーの技術やセンターの機材を活用して実施しているほか、障がいを負って自分一人で外出したことがない人や、同じ障がいを持つ人と一緒に、JR等の公共交通機関を利用して外出してみようという活動も行っています。

○車いすでの列車の旅について

私たちメンバーの楽しみである、JRを利用した旅行会は2～3ヶ月に1回程度実施し、先々週に5回目の旅行で今治市に行ってきました。

過去5回の旅行において感じたことは、列車の乗降に際し、事前に連絡す

ると駅員さんがスロープを用意してくれますが、硬いタイヤの車いすの場合、傾斜が急であるとすべり落ちる危険があり、都市部で使用されているような先端に留め具があるスロープがあれば、より安全に乗降ができると思います。

また、私たちは自分のスロープを持っているので、慣れているヘルパーさんをお願いして乗降ができればよりスムーズに乗車できると思っています。

私たちメンバーの最寄り駅は、関川、伊予寒川、伊予三島、川之江の4駅で、関川、伊予寒川の無人駅においても、事前に管轄の新居浜駅に電話連絡を入れると、駅員さんが対応してくれます。

しかし、関川駅は駅のホームが狭くスロープが使えず、伊予寒川駅では2番ホームが物理的な問題で利用できなく、特急の指定された車両に乗車すると駅の柱があって乗降できない状況です。何とか、車いすでの移動がスムーズに行えればと思っています。

伊予三島駅では3番ホームについても同様に物理的な問題で利用できない状況です。

また、車いすの重量は手動、電動で大幅な違いがあり、人が乗った状態では200kgを超える場合もあり、事前連絡の際に車いす利用者の簡潔なマニュアル等があれば、JRさんも私どもも意思の疎通が取りやすいと思います。

最後に、普通列車を使用しての旅行は、車内の通路も広くてメンバーが一同に集まる事が出来ることから、会話もはずみ非常に快適なものです。

○三島高校 VYS 部に調査を依頼し「市車いす徹底活用術」を作成

※VYS・・・voluntary youth socialworker(青少年のボランティア活動)

四国中央市のバリアフリーマップの作成を依頼したところ、三島高校 VYS 部が協力してくれる事となりました。

沖縄で同じ障がいを持たれている方からいただいた、沖縄のバリアフリーマップでは、各施設の概要等が手書きで作成されており、手作り感溢れるすばらしいものであったので、同じようなものを作成したいと思いました。

高校生とともに、それぞれの施設に同行し、手書きイラスト地図は高校生一人一人が実際に車いすで体験し、趣向溢れる手作り感いっぱいの資料を作成してくれました。高校生も自分の手書き地図が、自分の作品となって発行される事となることから、やりがいがあったものと思いますし、バリアフリー化についての興味をもってもらったものと思います。

本当に、すばらしい出来の冊子になったと思います。

高校生は、3年で卒業を迎えて入れ替わってしまいますが、三島高校 VYS 部との繋がりを継続していくためにも、今後は高校生と一緒に車いすを使用して、JR を利用する計画も立てていきたいと考えていま

インタビュー実施日：平成23年5月27日（金）・聞き手：藤井、本木

